

かすみがうら市議会産業建設委員会会議録

令和6年3月14日 午後 1時19分 開 議

出 席 委 員

委員長	佐藤文雄
副委員長	鈴木貞行
委員	岡崎勉
委員	石澤正広
委員	塚本直樹

欠 席 委 員

な し

委 員 外 委 員

な し

出 席 説 明 者

上下水道部長	槌田浩幸
上下水道課長	島田勝男

出 席 書 記 名

議会事務局 主 幹 川原場 智

議 事 日 程

令和6年3月14日（木曜日）午後 1時19分 開 議

1. 開 会
2. 事 件
 - (1) 逆西排水区雨水管布設工事について
 - (2) その他
3. 閉 会

開 議 午後 1時19分

○佐藤文雄委員長

委員の皆さんには、お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。
ただいまの出席委員は5名で、会議の定足数に達しておりますので、会議は成立しました。
それでは、ただいまから産業建設委員会を開きます。
傍聴はおりませんので、次に、書記を指名します。
議会事務局、川原場智君を指名いたします。
本日の日程は、会議次第のとおりであります。
それでは、早速本日の日程事項に入ります。
初めに、逆西排水区雨水管布設工事についてを議題といたします。
説明を求めます。

○上下水道部長（樋田浩幸君）

逆西排水区雨水管布設工事につきまして説明をさせていただきます。
座って説明させていただきます。
説明の詳細については、島田課長からとなりますけれども、冒頭、私のほうから皆様方に、議案審査特別委員会終了後、再度、産業建設委員会にお集まりいただきましてありがとうございます。貴重なお時間をありがとうございます。
本日の説明に当たりまして、図面を2枚配付をさせていただきます。
なお、この図面につきましては、この事業工事自体が4月以降の入札に係る案件でございますので、大変恐縮ではございますが、資料を配付しまして説明が終わりましたら、回収をさせていただきますので、その点ご理解をいただきたいと思っております。
では、委員長、資料の配付をさせていただいてよろしいでしょうか。

○佐藤文雄委員長

では、資料の配付をお願いします。

[資料配付]

○佐藤文雄委員長

それでは、説明をお願いします。

○上下水道部長（樋田浩幸君）

まず、下稲吉東小学校が書いてあります位置図と、もう1枚はこちらの道路形と管路形というグラフみたいな図の2枚となっております。
資料の漏れはございませんか。

それでは、説明のほうにつきましては、島田課長から説明をさせていただきます。

○上下水道課長（島田勝男君）

それでは、まず平面図のほうをご覧くださいと思います。

こちら、角来上池でございますが、この角来上池のほうに降った雨がほぼほぼ集まっていた、この枠で囲ってありますけれども、この辺の雨は全て角来上池のほうに流れ込んでおりまして、ここがあふれて冠水する、この冠水区間というところがありますけれども、そちらに水がたまってしまう、あるいは浸水してしまうという状況だったんですが、まずは道路課のほうで、この黒い点々です。下稲吉東小学校の校庭を横断している管がありますけれども、この管を布設することによって一部の区域を集水して水が流れるようにはしたんですが、それでもこの冠水区間については、土地が低いもので、そこにまだまだ水がたまってしまうと。そういうことがありまして、また地元の方からもどうかしていただきたいというご要望がありましたので、来年度、この赤いラインに部分に雨水管を埋設する工事を行う予定でおります。

高さにつきましては、次の2枚目のほうをちょっと見ていただきたいんですけども……

○佐藤文雄委員長

雨水管の太さが、径が書いてない。

○上下水道課長（島田勝男君）

今のところ、300ミリメートルを予定してございます。

あとは高低、断面図、2枚目をちょっと見ていただきたいんですけども、この赤いラインが来年度に施工する雨水管理設の高低になりますけれども、隣の黒いライン、こちらが道路課で埋設した下稲吉東小学校の校庭を横断している雨水管になってございます。

これをご覧くださいと分かりますけれども、赤いラインから黒いライン、ずっと勾配がつきまして、自然流下で角来下池まで流れる予定でおります。管自体は緩やかな勾配で水が流れていきます。ただ、道路、地盤高につきましては、一番低いところ、赤いラインのところ、25メートルあって、そこから少しずつ上がって行って、25.7メートルが山になって、その後また下がっていく。そういう状況ではございますが、管自体はきちんと勾配を保てますので、水は流れるような形で冠水が解消できるんじゃないかということで実施する工事でございます。

○佐藤文雄委員長

よろしいですか。

既設のバイパス管600ミリメートル、この黒い点々ですけれども、ここは新光霊園だったよね、緑のところ。

○上下水道課長（島田勝男君）

そうですね。

○佐藤文雄委員長

新光霊園というよりも、こちらの稲吉東地区、逆西3区から5区までですかね。これが流れたやつがこの既設バイパスの600ミリメートルのほうに流れるということになっているということなんですか。

○上下水道課長（島田勝男君）

現状、今のところそういう状況でございます。

○佐藤文雄委員長

ところが、青い矢印がありますが、この青い矢印が集水の榊のほうに行かなくて、これが逆に耳鼻咽喉科のところ、全体的に冠水地域にたまってしまうということですか。

○上下水道課長（島田勝男君）

既設のバイパス管に行くのは、この枠の中の水は既設のバイパス管の中に行くんです。それより、冠水区間と書いてあるほうの部分につきましては、冠水区間のほうに行ってしまうので、角来上池に通常は流れていくようになっています。

ただ、激しい雨で雨量が最大になってしまうとあふれてしまって、冠水してしまうという状況があるということでございます。

○佐藤文雄委員長

あふれるというのは、角来上池があふれるということですか。

○上下水道課長（島田勝男君）

それもありますね。

○佐藤文雄委員長

角来上池があふれるから、ここも冠水状態になるということですか。

○上下水道課長（島田勝男君）

そうですね。角来上池から逆流する部分が出てきますので、冠水してしまうという状況があります。

○佐藤文雄委員長

それで、こちらの横断図、これは管底が24.54メートルというのは一番端ですか。

○上下水道課長（島田勝男君）

これは、冠水区間で一番低い部分、低いところの地点が……

○佐藤文雄委員長

低いところはどちらですかというの。この平面図からいうと、角来上池のほうなんですね。

○上下水道課長（島田勝男君）

角来上池の直前といいますか、現地に行ってくださいと分かる。

○佐藤文雄委員長

角来上池のほうですか。

○上下水道課長（島田勝男君）

はい、そうです。

平面図と断面図と、このような形で見ただけだと分かりやすいかと思います。

イメージとしては、縦に並べたような形です。

○佐藤文雄委員長

角来上池のほうの24.54メートルと、上の25メートルというのはどういう関係ですか。

○上下水道課長（島田勝男君）

25メートルは地盤高です。

○佐藤文雄委員長

地盤高というのは。

○上下水道課長（島田勝男君）

道路の高さです。

○佐藤文雄委員長

道路の高さはどこですか。この場所は。

○上下水道部長（槌田浩幸君）

一番へりではないんですけども、角来上池に一番近い部分です。

○佐藤文雄委員長

赤い始まりのところの24.5メートルのところ、これをずっと測ってみると、こちらの1号幹線の道路の高さですか。それともどこの高さを言うんですか。

○上下水道部長（樋田浩幸君）

これは、この赤いところの始まりの道路の高さが25メートルです。

○佐藤文雄委員長

その下の24.54メートルのところに新しい雨水管路を入れると。

このまま吉田耳鼻咽喉科に行って、道路課がやった雨水用の既設のバイパスにつなぐということですね。

○上下水道課長（島田勝男君）

そうです。

○佐藤文雄委員長

これの一番端のところは管路の底が24.41メートル。

○上下水道課長（島田勝男君）

そのとおりです。

○佐藤文雄委員長

ここは、管路をつけるやり方が、かぎ型になっているでしょう。かぎ型なんですか。

○上下水道部長（樋田浩幸君）

かぎ型になりますね。このような形での施工になります。

○佐藤文雄委員長

かぎ型だとすつと行かないよな。

○上下水道部長（樋田浩幸君）

すつと行かなくても、流れては行きますので。

○佐藤文雄委員長

詰まっちゃたらしょうがないんじゃないの。

○上下水道部長（樋田浩幸君）

詰まるというか、水ですので、流下していきます。

○佐藤文雄委員長

でも、水がなかなか流れないと言ったでしょう、1号幹線だって。何で真つすぐにしないんですか。

○上下水道部長（樋田浩幸君）

今のところ、学校の敷地ということもありまして、設計上このような形で図面として上がってきているということです。

○佐藤文雄委員長

だから、曲げなければいいんじゃないのと言っている。

○上下水道部長（樋田浩幸君）

曲げられるか、曲げられないかはちょっとここではお答えできませんけれども……

○佐藤文雄委員長

何で曲げるの。だって、真つすぐ行ったほうがいいでしょう。だってかなりの冠水なんでしょう。それをうまく流すわけだから、すつと流れたほうがいいよね。

○上下水道部長（樋田浩幸君）

すっと流れたほうがよろしいでしょうけれども、曲がっていても傾斜がありますので。

○佐藤文雄委員長

いや、曲がっていても傾斜があるからって、一旦ぶつかるんだよ、水圧は。普通に考えられないぐらいに水圧は厳しいんだよ。300ミリメートルで目いっぱい詰まっていたら、非常に難しいんじゃないの、このかぎ型は。

これは現地に行ってみたって同じだよ、見ないんだから。なぜこういうふうにしたの。何かあったらそれを取っ払えばいいでしょう。だって、これは校庭だよ。

○上下水道部長（樋田浩幸君）

一応、既設管が入っているんです、ここに並行して。それと同じように並行して入れるということで、同じような形で並べていると。

○佐藤文雄委員長

既設バイパスの管のところをいうんですね。

○上下水道課長（島田勝男君）

黒い点々のところですよ。

○佐藤文雄委員長

だから、黒い点々のところにうまくアクセスできるように、少し斜めでも、真っすぐじゃなくて、かぎ型をつくらなくて接続できないのかと言っているんだよ。

暫時休憩します。 [午後 1時37分]

○佐藤文雄委員長

会議を再開いたします。 [午後 1時38分]

よろしいですか。

クランク状態になっているのは、設計委託業者が作った図面だと。だから実際はどうなっているか分からないということですか。

○上下水道課長（島田勝男君）

この赤いラインについては、これから設計が上がってきまして、来年度にその設計を基に工事を発注しますので、この形で工事はする予定でいます。

○佐藤文雄委員長

分かりました。

だから、やっぱりストレートに流すような検討ができないのかということが今回の私の意見です。

これ以上、説明はありますか。

○上下水道部長（樋田浩幸君）

1点だけいいですか。

議案審査特別委員会の際に、水が流れる、流れないのお話がありましたけれども、一応こちらがさつき説明させていただいた角来上池です。右側が角来下池になります。右側の角来下池の一番低いところが24.5メートルというふうに示させていただいております。これがずっと角来上池側に来ているラインが、角来下池の一番下と申しますか、道路の部分になります。

○佐藤文雄委員長

24.5メートルの角来下池の位置というのは、角来下池の一番低い地盤高となっていますね。

○上下水道部長（樋田浩幸君）

はい、一番低い地盤高です。

満水状態のときに、高さ24.5メートルまで水が来るということになります。

○佐藤文雄委員長

24.5メートルで、これが目いっぱい。

○上下水道部長（樋田浩幸君）

目いっぱい、それ以上は越えてしまうということになります。

○佐藤文雄委員長

角来下池のほうの上限の水位が24.5メートル。それ以上になっちゃうと越水すると。

○上下水道部長（樋田浩幸君）

道路側に越水します。

○佐藤文雄委員長

越水すると、越水した水は常磐線のほうに流れるということかな。

○上下水道部長（樋田浩幸君）

田んぼ側のほうへ流れていきますけれども。

○佐藤文雄委員長

これが24.5メートル。

○上下水道部長（樋田浩幸君）

はい、24.5メートルのラインです。

これをずっと左側に戻っていただきますと、今流そうとしているところの一番高いところが24.54メートルになります。ですので、この水の高さよりも上にあります。水は高いところから低いところへ流れていきますので、水の高さのことを水頭と言いますが、その水頭が一番上流側が高くなりますので、この水が流れないということはないということになります。

○佐藤文雄委員長

実際に、24.5メートルよりも低いわけですね、今現在。池の底が22.9メートルになっていますよね。例えば、22.9メートルのところまで行かない、このブルーの線があるでしょう。そこまで水がない状況がどんどんたままって、そして最大限に行ったときの高さが、左側の管底と右側の角来下池の一番低い地盤高24.5メートル。これを合わせると、左側の管底が高いので逆流はしないと。こうなっているからずっと流れるようになるよということですか。

○上下水道部長（樋田浩幸君）

そういうことを示している図面です。

○佐藤文雄委員長

じゃ、あとは道路の高さがどうのこうのというのは関係ない。

○上下水道部長（樋田浩幸君）

道路の高さはそうです。管底の高さで並んでいますので、道路はどうしても地盤が高いところは当然高くなってしまいますので、水を流したり、下水もそうですけれども、管底の高さに勾配をつけます流すような形にしています。

○佐藤文雄委員長

だから、道路の高さは基本的にはあまり関係ないということなので考えて現地を見たほうがいいよね。

○上下水道部長（樋田浩幸君）

雨水を流しますし。

○佐藤文雄委員長

ほかに今のうちに聞いておいたほうがいいのはありますか。

○鈴木貞行副委員長

既存にあるここからここまでというのは、そのまま残してということによろしいですね。

○上下水道部長（樋田浩幸君）

はい。

○石澤正広委員

黒で囲ってあるところは、既設管がこの丸のところから全部流れているということですよ。

○上下水道課長（島田勝男君）

おっしゃるとおりです。

○佐藤文雄委員長

じゃ、現地に行きましょう。

暫時休憩します。 [午後 1時43分]

○佐藤文雄委員長

会議を再開いたします。 [午後 2時46分]

現地調査、大変ご苦労さまでした。

それでは、逆西排水区雨水管布設工事について説明を求めます。

なお、説明は簡潔にお願いします。

○上下水道部長（樋田浩幸君）

現地を見ていただきまして、先ほど概要を説明したとおりでございますので、図面にて説明させていただきますけれども、平面図の左側の冠水区間でありますところのエリアが、どうしても雨が強く降りますと冠水して引かなくなるということでございますので、その水を既設のバイパス管、直径600ミリメートルと書いてありますけれども、中央部分です。そちらに向けて、赤い部分ですが、新しく管を布設するというような工事となっております。

現状としては、冠水区間の部分は角来上池に水が流れていたわけですが、それを角来下池に流して冠水を解消するというような工事となるところでございます。

○佐藤文雄委員長

ありがとうございました。

以上で説明が終わりました。

ただいまの件について、ご質問等がございましたら挙手の上、発言をお願いします。

○岡崎勉委員

話は大体分かりました。

角来上池から角来下池へ流す水、それを将来、やっぱりもう少し違った角度で計画してもいいんじゃないかなと思いますので、今からどんどん家が建ったりするんで、今日の分ではないんですけど、そういうふうを考えていただきたいと思います。

○佐藤文雄委員長

今、岡崎委員から要望等がありましたけれども、上下水道部長、何かございますか。

○上下水道部長（樋田浩幸君）

令和6年度の予算で上程しております調査、逆西排水区の調査がございまして、まさには排水であります1号幹線を含めたエリアの排水をどうするかということでございますので、今岡

崎委員からありました内容につきましても、そちらを反映させて、今後の排水区の計画に反映させていきたいと考えております。

○佐藤文雄委員長

ほかにありますか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○佐藤文雄委員長

それでは私のほうで。

ちょっと私、最初のほうに、埋設管というか、バイパスにつながる埋設管の件でかぎ型になっていますよと話をしましたけれども、現状を見て、今現在のバイパス管、これもかぎ型になっているということが現地での説明でも分かりましたし、現地でそうせざるを得ないなと思いましたので、了解をいたしました。

あと、ほかにございませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○佐藤文雄委員長

なければ、これで終わりたいと思いますが、本件を終結いたします。

どうもご苦労さまでした。

暫時休憩します。 [午後 2時50分]

○佐藤文雄委員長

会議を再開いたします。 [午後 2時50分]

以上で本日の日程事項は全て終了いたしました。そのほか委員の皆様から何かございませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○佐藤文雄委員長

それでは、ないようですので、以上で産業建設委員会を散会いたします。

ご苦労さまでした。

散 会 午後 2時51分

かすみがうら市議会委員会条例第 30 条第 1 項の規定により署名する。

産業建設委員会委員長 佐 藤 文 雄